

## 第 1 章 事業の目的と内容

### 1.1 川辺川の概要

川辺川は、熊本県八代郡泉村の国見岳を源流とする、球磨川水系の大きな右支川である。国見岳から南西に流れ下り、五家荘の平家落人伝説で有名な泉村や、子守唄の里として有名な五木村を貫流し、茶の産地として有名な相良村で本川の球磨川に合流する。川辺川の流域面積は 533km<sup>2</sup>、流路延長は 62km で、球磨川の流域面積の約 3 割を占める球磨川最大の支川であり、この流域には約 8 千人(平成 2 年現在)の人々が生活している。

本川の球磨川は、同県球磨郡水上村の銚子笠に源流をもち、そこから南西に流れ下り、人吉盆地を貫流しつつ、相良村で川辺川と合流する。その後、流れの向きを北西に変えて狭窄部を流れ下り、八代平野で前川と南川を分派し、不知火海に流れ込む。球磨川の流域面積は 1,880km<sup>2</sup>、幹川流路延長は 115km であり、ともに九州第 3 位の規模を誇っている。この流域には約 14 万人(平成 2 年現在)の人々が生活している(図 1.1-1)。

球磨川流域の年平均降水量は約 2,800mm(平成元年～平成 10 年)で、日本の年平均降水量 1,714mm(昭和 41 年～平成 7 年)と比べ 1,000mm 以上も上回っている。特に川辺川流域では約 2,950mm(平成元年～平成 10 年)にも達し、多雨地帯となっている。このため、球磨川は古来より氾濫を繰り返してきており、「暴れ川」の名をほしいままにしている。月別平均降水量では、6～7 月を中心として、梅雨期に降水量が集中するのが特徴である(図 1.1-2、図 1.1-3)。

球磨川の流域内の産業をみると、上・中流部では茶や梨、栗などの農作物の栽培や林業が盛んで、焼酎(球磨焼酎)造りも有名である。人吉市から球磨村にかけては、急流を生かした舟下りや温泉などの観光の名所でもある。下流部では、稲作やい草栽培をはじめとした農業や、八代市のパルプ・紙・紙加工品製造業や金属製品製造業などの工業が盛んであり、球磨川水系全川にわたりアユ漁など内水面漁業も盛んに行われている。

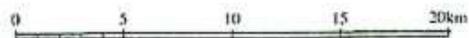
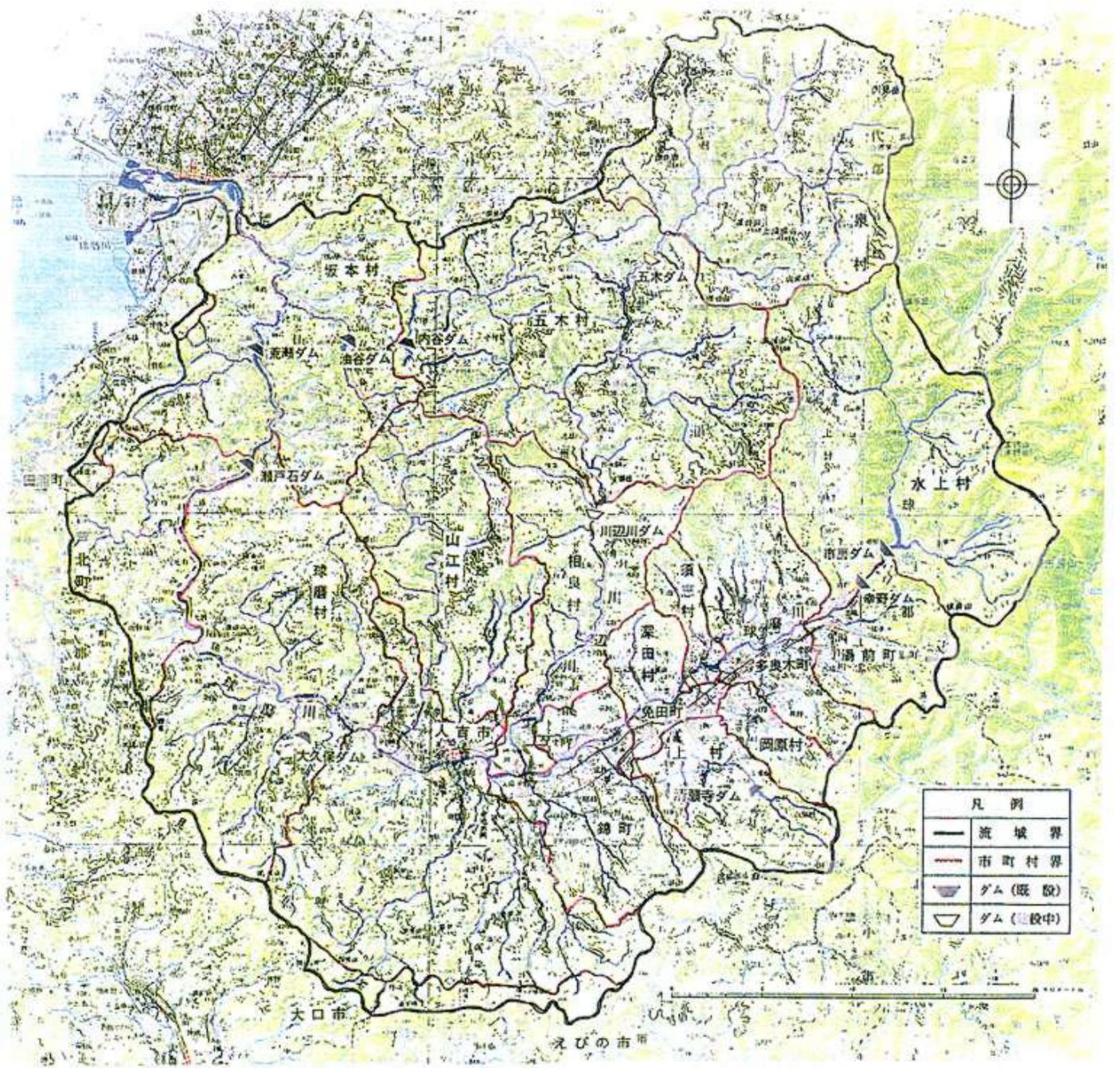


图 1.1-1 球磨川流域概要図

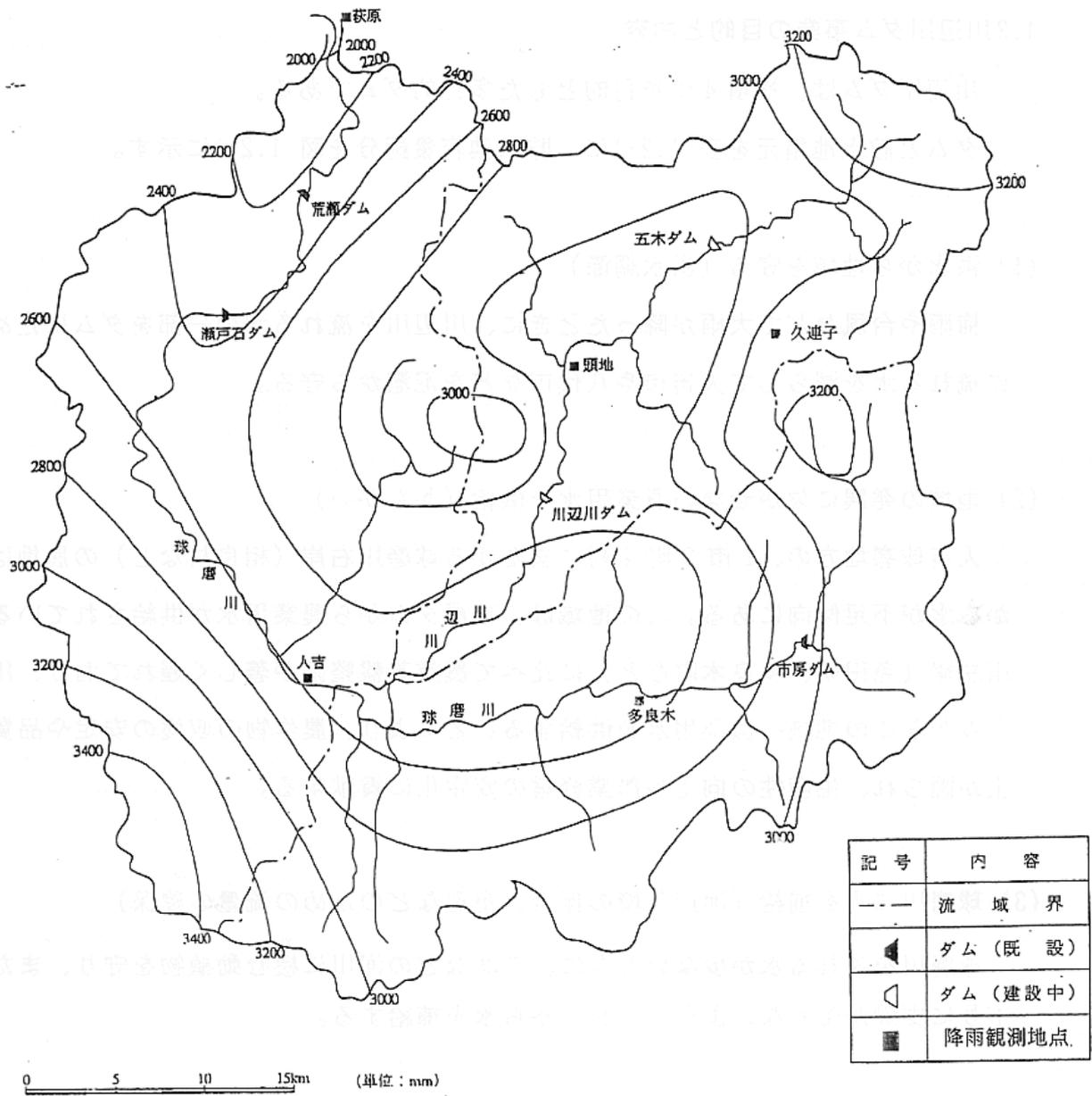


図 1.1-2 球磨川流域の年平均降水量分布図

(平成元年～平成10年の10年間の平均)

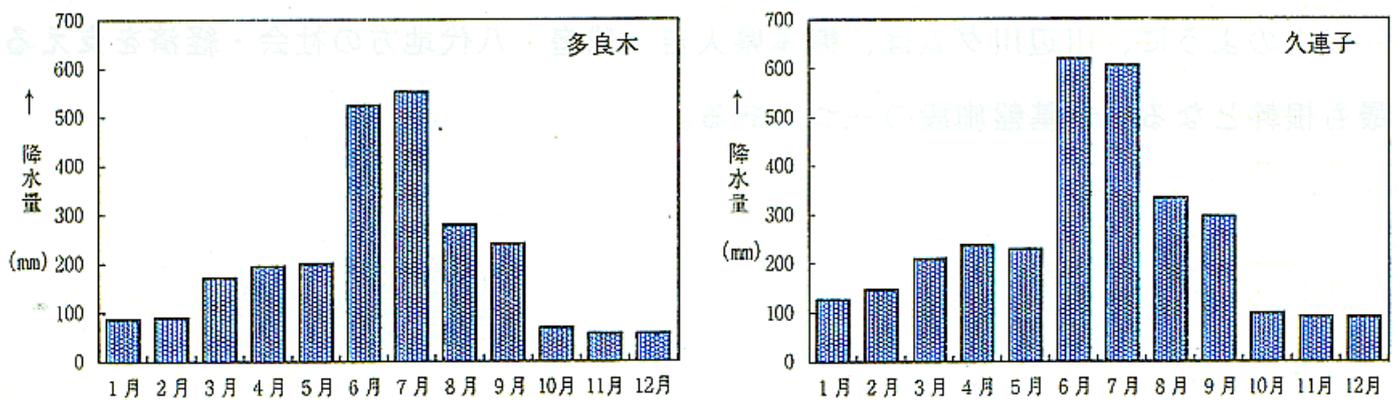


図 1.1-3 月別平均降水量図

(平成元年～平成10年の10年間の平均)